



ISSB Update は、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）の予備的決定を示している。これらの決定の影響を受けるプロジェクトは、[作業計画](#)で見ることができる。

IFRS®サステナビリティ開示基準に関する ISSB の最終的な決定は、IFRS 財団の[「デュール・プロセス・ハンドブック」](#)に示されているとおり正式に書面投票が行われる。

ISSB は、[2023年3月16日](#)にリモートで会議を行った。

関連情報：

- ・ 原文は[こちら](#)
- ・ ISSB ボード会議の要約のオーディオ（ポッドキャスト）は[こちら](#)

目次

リサーチ及び基準設定

- ・ [SASB スタンダードの国際的な適用可能性（アジェンダ・ペーパー8）](#)

戦略及びガバナンス

- ・ [アジェンダの優先度に関する ISSB の協議（アジェンダ・ペーパー2）](#)

リサーチ及び基準設定

SASB スタンダードの国際的な適用可能性（アジェンダ・ペーパー8）

ISSB は、2023年3月16日に会議を行い、SASB スタンダードを維持、向上及び改善するプロセスについて議論した。これには SASB スタンダードの国際的な適用可能性プロジェクトに伴う作業を含む。

ISSB は何も決定を求められなかった。

戦略及びガバナンス

アジェンダの優先度に関する ISSB の協議（アジェンダ・ペーパー2）

ISSB は、2023年3月16日に会議を行い、ISSB の最初の情報要請（Request for Information）に含まれる潜在的なプロジェクトの1つについて議論した。情報要請に関して利害関係者から提供されるフィードバックにより、ISSB の2年間の作業計画に情報がもたらされる。

2022年12月の会議において、ISSB は、情報要請において、4つの潜在的なプロジェクトに関する利害関係者のフィードバックを求めることを暫定的に決定した。4つの潜在的なプロジェクトのうち1つは、報告におけるつながり（connectivity in reporting）に焦点を当てたものであり、国際会計基準審議会（IASB）の経営者による説明（Management Commentary）プロジェクト及び統合報告フレームワークに基づくIASBとの共同プロジェクトとして記述されていた。

この会議において、ISSB は、情報要請において、次のようにすることを暫定的に決定した。

- a. 報告におけるつながり（connectivity in reporting）に関しての潜在的なプロジェクトの範囲を拡大し、次のことを行う。
 - i. 報告における統合（integration in reporting）に焦点を当てる。

- ii. IFRS S1 号「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的な要求事項」(S1 基準) 及び IFRS S2 号「気候関連開示」(S2 基準) における、つながりのある情報 (connected information) に関連する要求事項を超えて、統合された開示 (integrated disclosures) を検討する。
- b. S1 基準及び S2 基準におけるつながりのある情報 (connected information) に関連する要求事項の説明 (discussion) を含め、報告における統合 (integration in reporting) に関する潜在的なプロジェクトに必要な文脈を提供する。
- c. 報告における統合 (integration in reporting) に関する潜在的なプロジェクトを、正式な共同プロジェクトとして示すのではなく、IASB と共同で進める可能性のある ISSB のプロジェクトとして示す。
- d. 報告における統合 (integration in reporting) に関するプロジェクトを、どのように進めるべきかについてのインプットを引き出す (elicit) ように質問を設計する。

14 名の ISSB メンバーのうち 13 名が、これらの決定に同意した。

また、ISSB は、情報要請において、報告における統合 (integration in reporting) に関する潜在的なプロジェクトに対する、次のことに関するフィードバックを求めることに暫定的に合意した。

- a. 情報要請に含まれる他の潜在的なリサーチプロジェクトと比較した、報告における統合 (integration in reporting) に関する潜在的なプロジェクトの優先度及び緊急性
- b. 報告における統合 (integration in reporting) に関する潜在的なプロジェクトを、IASB との正式な共同プロジェクトとするべきか、又は、必要に応じて IASB からのインプットを活用できる (draw on) ISSB のプロジェクトとするべきか
- c. 報告における統合 (integration in reporting) に関する潜在的なプロジェクトは、IASB の経営者による説明 (Management Commentary) プロジェクト、統合報告フレームワーク、それらの両方の文書又は他の情報源からの概念に基づき、それらの概念を取り入れるべきかどうか

14 名の ISSB メンバーのうち 13 名が、これらの決定に同意した。

次のステップ

ISSB は、情報要請を作成する際に実施されるデュー・プロセスのステップについて議論する予定であり、情報要請のコメント期間の長さ及び公表日に関して決定する予定である。